

## 令和3年度 3年生進路学習会 校長あいさつ

みなさんこんにちは。校長の田村です。早いもので、秋も深まり、今年度も残り半分となりました。今年は、新型コロナウイルスの関係で、体育祭と学校総合体育大会は何とか行えたものの、第5波の影響で新人戦が中止となり、修学旅行と市民文化会館においての合唱祭の中止を余儀なくされました。現在、しらさぎ祭と銘打ち、学校の体育館での文化的行事を計画しているところです。また、3年生は、思い出実行委員会を立ち上げ、なにやら企画していると聞いています。ものごとは、事実を変えることはできませんが、見方や考え方、受け止め方を変えることはいくらでもできます。しらさぎ祭が楽しかった。思い出実行委員の企画したイベントが心に残った…。そういった年があってもいいし、それらを通し、学び、成長することができたら例年よりずっと教育効果も高いと思います。今現在は、どういう訳なのか勉強不足でよくわかりませんが、新型コロナウイルスが影を潜めています。この状況が長く続き、あわよくばこのまま自然消滅してくれることを願っていますが、おそらく第6波は近いうちに来るでしょう。その影響を少しでも小さいものにするために、学校も社会の一員として、引き続き感染拡大の防止に努めてまいります。ご協力のほど、よろしくお願い致します。

さて、3年生諸君、時間は無常に過ぎてゆきます。卒業までのカウントダウンは始まっています。10月もあっという間に終わってしまいますね。3年生の諸君もあと5ヶ月で本校を卒業です。5ヶ月後には義務教育を終えます。これまで、小学校、中学校と、どんなに勉強ができなくても、何回遅刻をしようとも、何日休もうと、何度叱られようと、決して見捨てられることのなかった立場から、一転して「自己責任」という名のもとに、ある意味自由な面も広がりますが、その分、責任が自分にのしかかってくることとなります。高校は、出席日数が基準以下であったり、一教科でも成績が基準以下であったりすれば、進級をさせてもらえません。警察のお世話になるような行動をすれば退学となってしまいます。今一度、生徒諸君には、自分は何をしに高校へ行くのか、ということ自分を問うてほしい。君たちの年齢で既に働いている人間は、世界にはたくさんいる。進学することを許される環境にあることに感謝すべきである。受験勉強の苦しさなど、日々家族のために働いてくれている保護者の苦勞に比べたら、そして生徒諸君が数年先に社会に出た後に味わう辛さに比べたら、まさにぬるま湯の中でわがままな自己主張をしているに過ぎない事に早く気づき、その上で自分はグローバルな視点でどう生きていくのかを考えなさい。

運動部での試合や文化部のコンクール同様、受験の結果も情け容赦のないものです。しかし、スポーツの試合や文化部のコンクール同様、負けても、すなわち受験に不合

格となったとしても、そんなことで、人生は決して決まらないということも忘れないでください。人生は挫折の連続であり、思い通りにならない事ばかりです。しかし、私がこれまでに何度も言ってきたように、置かれた環境で体勢を立て直し、気持ち新たに、柳の木の枝のように、しなやかにそして強く生きていくことができれば、幸せな人生となるのです。3年生の生徒諸君、これからの5ヶ月間、仲間と共に、励まし合いながら、愚痴を言わず、結果を恐れず、冷静に判断をすることが大切です。のんびりし過ぎではどうにもなりません、あまり悲壮感を漂わせて頑なに考える必要もないことも覚えておきます。

保護者の皆様には、大人として、人生の先輩として、大きく構え、子供のがんばりや成長を信じて、あれこれ言わずに、見守っていただければと思います。今日はこのあと、担当から具体的な話がたくさんありますが、分からないことは、遠慮なく質問して、すっきりしてお帰りください。どうぞよろしく願いいたします。

令和3年10月28日 春日部市立飯沼中学校長